



「つながりの森」構想

平成 24 年 7 月

横浜市 環境創造局



横浜市生物多様性キャッチフレーズ

目次

1	「つながりの森」構想とは.....	1
	(1) 「つながりの森」の目標.....	1
	(2) 構想策定の背景.....	2
	(3) 構想の位置づけ・役割.....	3
	(4) 「つながりの森」エリア.....	4
2	「つながりの森」の今.....	7
	(1) 立地・環境特性.....	7
	(2) 市民の活動・利用.....	11
	(3) 主な関連計画・事業.....	15
3	「つながりの森」の取組.....	17
	(1) 基本方針.....	17
	(2) 具体的な取組.....	18
	基本方針1 生き物の多様性を大切にする.....	19
	基本方針2 自然を楽しむ.....	27

1 「つながりの森」構想とは

(1) 「つながりの森」の目標

つながりの森は、恵まれた自然環境の中、多様で貴重な動植物が生息・生育している「横浜の生物多様性の宝庫」です。つながりの森の環境を子どもたちが肌で感じることは、必ず将来の成長に役立ちます。

そこで、

**「横浜の生物多様性の宝庫」である「つながりの森」を
市民全体で、体感・感動し、次代、次々代につないでいく**

ことを最も大切な目標とし、次代を担う子どもたちが、「つながりの森」を訪れ、生き物のつながり、生き物の恵みを「感じる」「学ぶ」「支える」「発信する」ことができるような森を維持します。

【将来イメージ】

- 水辺や緑地が保全され、良好に維持されています。
- 生き物の生息・生育環境のつながりである、エコロジカルネットワーク^{※1}が形成され、生物多様性の保全・再生が推進されています。
- 子どもたちを中心とした市民の、水・緑や生き物に触れる機会が増え、自然が身近になります。
- 子どもたちや、活動団体、市民、企業などが連携し、生物多様性の保全や環境教育・環境学習など、様々な取組が活発に行われています。

※1 エコロジカルネットワークとは、生き物の生息地と、その生息地どうしを結ぶ移動経路から構成される生態的なネットワークのことです。生息地どうしを移動経路のネットワークでつなげることにより、生態系の回復や生物多様性の保全を図ることが期待できます。(図1-1)



図 1-1 エコロジカルネットワークの形成による生き物の移動イメージ

(2) 構想策定の背景

横浜市は、生物多様性基本法に基づく、地域戦略にあたるヨコハマbプラン（生物多様性横浜行動計画）（以下「ヨコハマbプラン」という。）を平成23年4月に策定しました。

ヨコハマbプランでは、生物多様性の施策を行っていく上では、市民・企業の主体的取組、行政の組織横断的取組を戦略的に連携させながら進めていくことが重要であり、そうしたことをふまえ、これまでの横浜市の取組を部門間の連携などにより見直し、さらに重点的に進めていく重点推進施策を「6つの重点アピール」として掲げました。その1つが「つながりの森」です。

ヨコハマbプランにおける施策目標である「子どもたちが身近で、昆虫、鳥類、草花、魚類などの多様な生き物を体感し、生き物とともに生きている感性をみがいていく。そのために、大人はなにをなすべきか？」の視点に立ち、「つながりの森」では「成功事例の積み重ねとしくみの定着」をさせるための、重点アピールとして先導的に展開します。

なお、「つながりの森」の「森」とは、河川、水路などの水や樹林地、農地、公園などの緑を一体的に扱っていくことから、これらの水と緑を合わせて表現しています。

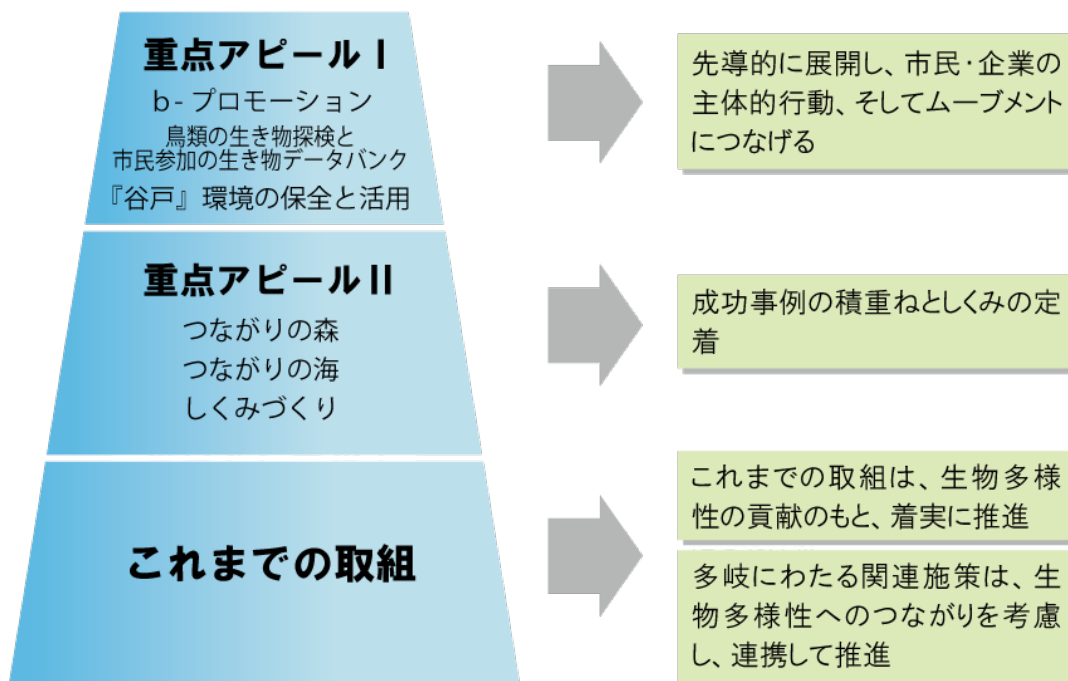


図 1-2 横浜市の生物多様性の施策の6つの重点アピール

出典：ヨコハマbプラン（生物多様性横浜行動計画）横浜市、平成23年4月

(3) 構想の位置づけ・役割

「つながりの森」構想は、ヨコハマbプランに位置づけられ、「横浜市水と緑の基本計画」「横浜みどりアップ計画（新規・拡充施策）」など関連する計画と連携させていきます。

これまでの様々な取組、環境特性を生かし、基本方針としてまとめた「つながりの森」を市民全体で守り、育てていくアクションプランとなります。

さらに、「つながりの森」構想では、目指すべき将来像を実現するために、生物多様性の保全を目標とした、水・緑や生き物の生育・生息環境の保全など「**生き物の多様性を大切にす**る」ための取組みと、子どもたちの森における体験機会を増やし、森を支える人材を育成するなど「**自然を楽しむ**」ための取組を推進します。

なお、「つながりの森」構想は、新たな規制等を行うものではありませんが、関連計画と整合を図りながら良好な都市環境の形成を目指し、取組を推進します。

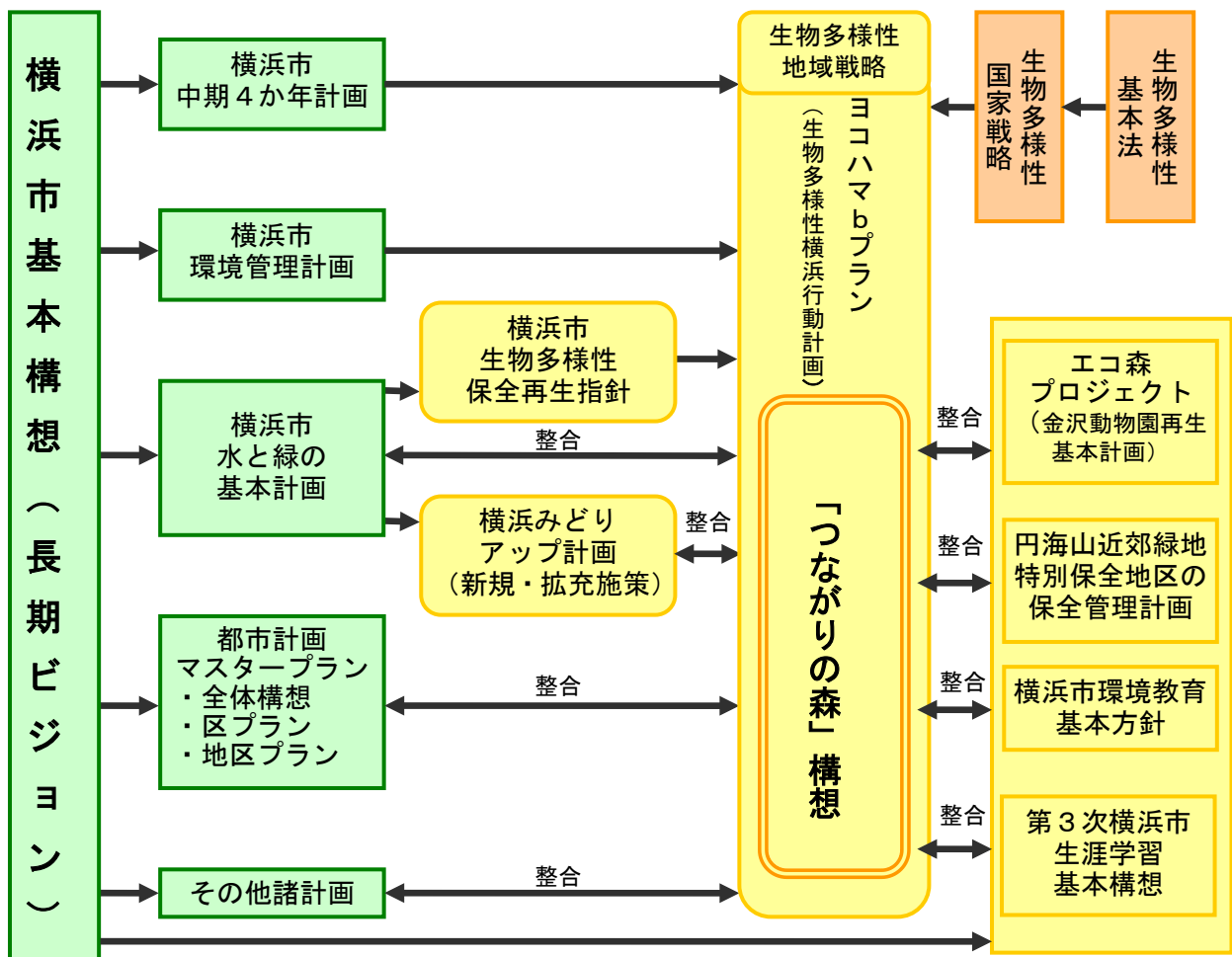


図 1-3 環境に関する諸計画及び横浜市の施策との関係

(4) 「つながりの森」エリア

横浜市南部の円海山^{えんかいさん}周辺を中心とし、いたち川から小柴地区までを「つながりの森」構想の対象エリアとします（図1-4）

「つながりの森」エリアでは、連続した自然資源が最も豊かである円海山周辺をコア区域、その周辺にある市民の森などの樹林地、農地や公園、河川などを関連区域として、各区域のつながり、人と人のつながり、人と生き物のつながり、人と区域のつながりなどを求めています。これら様々なつながりにより、ゆらぎのあるエリアであるため、境界線はありません。

つながりの森エリア内の主な樹林地としては、円海山近郊緑地特別保全地区や、朝比奈、釜利谷、上郷・中野などの特別緑地保全地区、瀬上、氷取沢、峯、荒井沢などの市民の森、自然観察の森などがあります。また、農地としては、氷取沢、柴の農業専用地区（市民農園柴シーサイドファーム）があり、その他にも、金沢自然公園、能見堂緑地、海の公園、称名寺など水と緑の拠点が多くあります。河川は、大岡川、いたち川、宮川、侍従川などがあります。（図1-5）

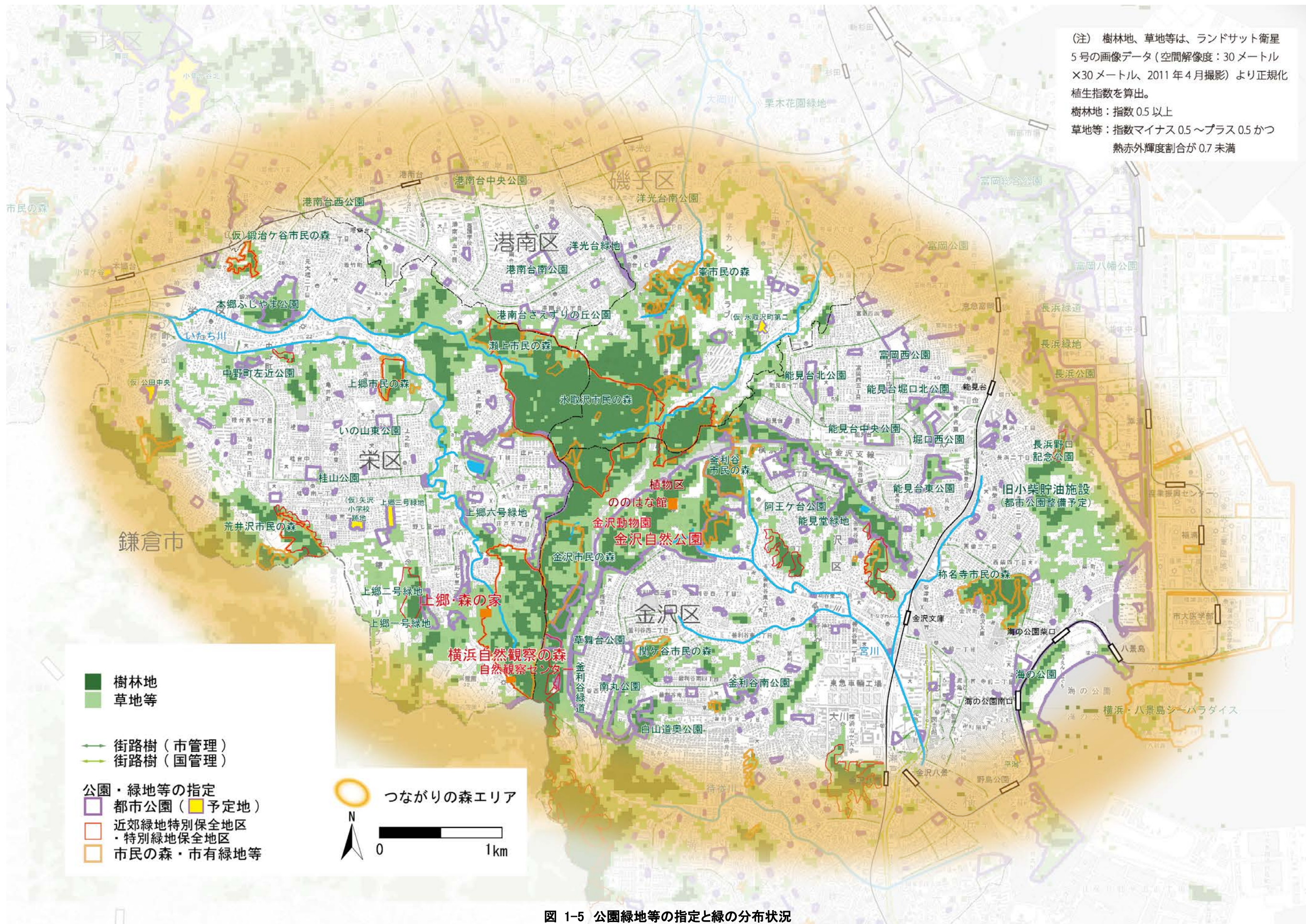


図 1-5 公園緑地等の指定と緑の分布状況